学科　　ライフスタイル学科	所感 予習動画を導入している。財団法人 大学コンソーシアム京都が、2021 年 2 月に開催した「第 26 回 FD フォーラム」に参加し、反転授業の分科会に出席して、期待できる効果とテクニックを学んだ。 発表者の「学生は、今日の授業で何を学ぶかを理解して、教室に入って来ます。復習ではなく予習に力を入れた方が、教室で学生の理解が確認できます。予習と復習の時間を反転させれば、授業が変わります。今は動画作成も簡単です。これまでのスライドで行えます」という発言が、今も心に残っている。事前の準備と事後の課題確認で、毎週、授業ごとに 7～9 時間を必要とするが、学生の授業評価は上昇した。成績も概ね上がった。これからも、続けたい。
氏名　　龍田　建次	

家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa 型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。

イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。

ロ 管理栄養士専攻の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。

ハ こどもの生活専攻の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。

1　教育の責任

ライフスタイル学科の教員として、情報関連科目、初年次教育、スタジオ、卒業研究を担当している。また、兼任として、管理栄養学科の情報リテラシー科目を担当している。右の表に、2024 年度に担当した 18 科目の対象学科、開講期、受講数などを示す。（添付資料 1：シラバス）

「情報リテラシーI、II」「データ解析」は、情報関連科目である。ワープロを始め、プレゼンテーション用アプリ、表計算、データベースの操作技術の修得を目指している。これらの技術は、以後の授業の基盤となる。この授業がなぜ設定されているのか、情報関連で、今後どの様な知識・技術が必要かを理解させるように、工夫している。

「ライフスタイル学基礎講座」「ライフスタイル学演習 I」は、初年次教育科目である。大学生活で気を付けるべきことを理解し、書き言葉に慣れること、初年次の振り返りなどを目標にしている。

卒業研究では、「キャンパス周辺の歴史と農業イベントの効果」「日常生活で流れている音楽とその影響」などをテーマに、進めている。また、履修指導や就活指導も行っている。

その他、ライフスタイル学科 2 年生の指導教員やライフスタイル学科の教務委員などを担当している。

科目名	学科	開講期	受講者数	備考
データ解析法	ライフスタイル学科	2 年前期（2024）	27	フードスペシャリスト
情報リテラシーI	管理栄養学科	1 年前期（2024）	A:33、B:26	教職必修
情報リテラシーII	管理栄養学科	1 年後期（2024）	A:22、B:27	教職必修
ライフスタイル学基礎講座	ライフスタイル学科	1 年前期（2024）	37	オムニバス、卒業必修
ライフスタイル学演習 I	ライフスタイル学科	1 年前期（2024）	37	オムニバス、選択必修
インターンシップ論	ライフスタイル学科	2 年後期（2024）	32	主担当
インターンシップ	ライフスタイル学科	3 年通年（2024）	11	
スタジオ入門	ライフスタイル学科	2 年後期（2024）	38	オムニバス
スタジオ C	ライフスタイル学科	3 年通期（2024）	8	
家庭電気機械情報処理	家政学専攻	3 年後期（2024）	14	教職必修
国内研修旅行	ライフスタイル学科	1 年前期（2024）	39	卒業必修
卒業研究	家政学専攻	4 年通期（2024）	4	卒業必修
アウトリーチスタートアップ	家政学部	1 年前期（2024）	4	オムニバス、卒業必修
アウトリーチ I	家政学部	1 年通年（2024）	4	卒業必修

2　教育の理念と目的

卒業生が、幸福感を持って、充実した人生を送ってもらうことが、私の教育活動の目標である。

情報に関わる教員としては、パソコンによる情報発信の基礎技能を、すべての学生が修得することを目標としている。

パソコンを始めとする情報機器は、資料を作成し、情報を提示するために必須のアイテムとなっている。社会生活を送る中で、コミュニケーション（他者理解と自己表現）は必須であり、現代社会では、その多くの部分をパソコンが担っている。授業を展開する教員も、学生に知識・技能を伝えるために、パソコンを使ってスライドや提示物などを作成し、パソコンを操作しながら授業というプレゼンテーションを行っている。会社や家庭、地域など様々な場所や場面で、気軽にパソコンを活用して、情報発信が行えるように、授業を構築している。

より具体的には、ワープロ、プレゼン、表計算、検索の基礎技能の修得を目指している。これらは、他のすべての学習で必要となる。

3　教育方法

すべての授業で、授業目標の提示、事前の準備・予習の実施、教員による実演、練習課題の実施、事後の学習・復習を行っている。

情報処理演習を例に、授業の流れを示す。

【授業の達成目標】

パソコンを活用できない学生を無くす。

【授業の基本的な流れ】

［予習動画で、その週の授業内容を紹介する］

10 分から 20 分の動画を作成し、事前に配信している。動画では、その週の授業項目、予習課題（事前に調べること・行うこと）提示している。

項目、課題と成果は、前の週の授業時間に配布する「学修 行動特性 評価シート」に書かせる。

［導入課題を一緒に行う］

導入課題を提示して、私のパソコン画面を表示しながら、一緒に課題を行う。導入課題は、テキストやプリントで提示している。

作業の手順も概ね書き込んでおり、授業後も自習できるようにしている。

なお、課題に対する知識・技能がないが、一緒にやってくれない学生がいる。今後は、一緒に体験することの大切さを理解してもらえるような工夫が必要である。

［導入課題と同様の課題を繰り返し行わせる、提出させる］

導入課題と同様な課題を、テキストやプリントで提示する。繰り返し課題を行わせることにより、技能が身に着く。課題の一部は、授業時間外の復習課題となる。

後日、cms である Classroom を活用して課題成果の回収を行う。

［模擬試験・中間試験］

第 11 週と第 12 週を目処に、導入課題に準じた模擬試験と中間試験を行う。

［期末試験］

期末試験期間に、中間試験と同様な試験を行う。中間試験か期末試験の良い方を、試験の評価とする。

（添付資料 1：シラバス、添付資料 3：テキスト、添付資料 4：学修 行動特性 評価シート、添付資料 5：配布資料、添付資料 6：授業用スライド）

4　授業改善の活動

授業アンケートの結果などを活用して、以下の改善を行っている。

- 授業用スライドと授業ノートの構築と更新
- 授業用テキストと配布資料の構築と更新
- 予習動画（反転授業）の導入
- 学部をあげて導入を行っている「学修 行動特性 評価シート」を、概ね毎回作成し導入
- 「情報リテラシーI、II」「データ解析法」「家庭電気・機械及び情報処理」という授業で、毎週、授業の最初にプレテスト（小テスト）を導入
- キャリア形成科目では、毎回、授業の進行に合わせて、学生に書き込ませるワークシートを作成し導入

（添付資料 1：シラバス、添付資料 3：テキスト、添付資料 4：学修 行動特性 評価シート、添付資料 5：配布資料、添付資料 6：授業用スライド、
添付資料 7：ミニッツペーパー、添付資料 8：プレテスト、添付資料 9：ワークシート）

5　学生の授業評価

授業評価アンケートでは、教員の評価で、「学生の反応を確かめながら授業していた」や「質問や相談ができるように配慮していた」で良い評価を受けた。

ところで、演習科目である「情報リテラシー」では、毎週、概ね 30 分の予習と 15 分の復習を設定した。しかしながら、予習では、65%が設定を超えた。復習では、設定より短いが 30%で、長いが 25%であった。予復習の内容を見直すことにした。

「学修 行動特性 評価シートは、学習内容の理解に役立った」では、どちらとも言えないが半数以上であった。「シラバス記載の学習の到達目標を達成できた」や「この授業が総合的に有意義で満足できるものであった」でも、どちらとも言えないが多くなっていた。

（添付資料 10：授業 リフレクションペーパー）

6　学生の学修成果

学修 行動特性 評価シートの提出率は、80%を超えている。しかしながら、その平均的な評価は、10 点満点中 6 点となっている。学修 行動特性 評価シートの評価は、事前に学生に提示した採点基準により行っている。改めて、シートの内容を精査し、授業内容との関係がよく分かるようにする。また、予習・復習として課すべき時間を意識して、内容を整理する。

これからは、より明確に担当授業の必要性を説明する。

（添付資料 4：学修 行動特性 評価シート、添付資料 9：ワークシート）

7　授業科目に関連した教材開発

担当している実習形式の授業では、個々の現状に合わせて、教材を作成し学生に提供している。このような教材を再編集して、以下の授業用テキストを出版した。

- Loutus 1-2-3 によるパソコン演習（出版社: 裳華房）、平成 7 年 3 月
- パソコン演習（Windows, Word & Excel）（出版社: みらい）、平成 13 年 4 月
- パソコン演習（Windows・Word・PowerPoint・Excel）（出版社: みらい）、平成 17 年 4 月
- コンピュータ入門（Windows・Word・PowerPoint・Excel）（出版社: みらい）、平成 21 年 4 月
- コンピュータ入門（Windows Word PowerPoint Excel 2010）（出版社: みらい）、平成 24 年 4 月
- パソコン入門（Windows Word PowerPoint Excel 2016）（ムイスリ出版）、平成 29 年 3 月
- パソコン入門（Windows Word PowerPoint Excel 2021）（ムイスリ出版）、令和 6 年 3 月

- 授業用スライドと授業ノートの作成と更新

（添付資料 1：シラバス、添付資料 3：テキスト、添付資料 5：配布資料、添付資料 6：授業用スライド、添付資料 7：プレテスト、
添付資料 8：プレテスト、添付資料 9：ワークシート）

8　指導力向上のための取り組み

【学内の取り組み】

- e-learning のための LMS（学習管理システム: Moodle）の導入、平成 19 年 10 月
- 家政学専攻 FD 講習会「ラーニングサイト活用法」の企画、実施、講師、平成 20 年 8 月
- 家政学部 FD 講習会「ラーニングサイト活用法」の企画、実施、講師、平成 24 年 8 月
- 平成 30 年度 FD 研修会 出席、平成 30 年 9 月、平成 31 年 3 月
- 2019 年度、2020 年度、2021 年度、2022 年度、2023 年度、2024 年度 FD 研修会 出席。

【学外の取り組み】

以下に、参加したフォーラムやセミナー、講習会などを示す。グループワークの手法やアイスブレイク・チェックインの事例、プレテストなどを学び、担当している授業で活用することができた。Moodle や Classroom などの cms も、これらの研修会で学んだ。

- 2015 年度 第 21 回 FD フォーラム, 財団法人 大学コンソーシアム京都, 平成 28 年 3 月
- FD プログラム「『日本語技法』をどう教えるか」, 香川大学 大学教育開発センター, 平成 28 年 3 月
- 公開セミナー「ファシリテーション基礎講座」, 日本ファシリテーション協会, 平成 28 年 3 月
- 協同教育ワークショップ ベーシック, 日本協同教育学会, 平成 28 年 3 月
- SPOD フォーラム 2016, SPOD（四国地区 大学教職員 能力開発 ネットワーク）, 平成 28 年 8 月
- 2017 年度 第 23 回 FD フォーラム, 財団法人 大学コンソーシアム京都, 平成 30 年 3 月
- ファシリテーション講座 入門セミナー, Be-Nature School, 平成 30 年 3 月
- 平成 30 年度 FD のための情報技術研究講習会, 公益社団法人 私立大学情報教育協会, 平成 31 年 2 月
- 2018 年度 第 24 回 FD フォーラム, 財団法人 大学コンソーシアム京都, 平成 31 年 3 月
- 2019 年度 私情協 教育イノベーション大会, 公益社団法人 私立大学情報教育協会, 令和元年 9 月
- 2020 年度 第 26 回 FD フォーラム, 財団法人 大学コンソーシアム京都, 令和 3 年 2 月
- 2022 年度 第 28 回 FD フォーラム, 財団法人 大学コンソーシアム京都, 令和 5 年 2 月
- 2023 年度 第 29 回 FD フォーラム, 財団法人 大学コンソーシアム京都, 令和 6 年 2 月
- 2024 年度 第 30 回 FD・SD フォーラム, 財団法人 大学コンソーシアム京都, 令和 7 年 3 月
- 令和 5 年度 FD のための情報技術研究講習会, 公益社団法人 私立大学情報教育協会, 令和 6 年 2 月
- 令和 6 年度 FD のための情報技術研究講習会, 公益社団法人 私立大学情報教育協会, 令和 7 年 2 月

（添付資料 11：Moodle の活用事例報告、添付資料 12：講習会資料、添付資料 13：フォーラム、講習会への参加復命書）

9　今後の目標

短期的には、授業の導入時に行うレクチャーと実演を、充実させたい。より明確に達成目標を提示し、目標にした理由をより丁寧に説明する。また、授業アンケートで感じた、予習・復習内容の見直しを行う。そのためにも、講習会などに積極的に参加し、より良いレクチャーや提示の方法を学び、授業に取り入れたい。 中長期的には、AI に関する知識・技能と、自由記述から授業の問題点を抽出する手法について、それぞれ習得する。数年後には、大学で、AI の基礎知識・技能に関する科目が設定される。情報関連科目を担当する教員として、対応できるようにする。この話題は、私立大学情報教育協会の大会で知った。これからも、これらの大会や講習会などに参加し、情報収集と授業方法の学習を行う。ワークシートやアンケートの自由記述には、学生の授業に対する感覚が示されている。これまでは、単に目を通して、目に付いた記述のみに反応していた。見落としがあるのではと感じている。多く書かれるワードを、テキストマイニングを活用して抽出することを検討している。テキストマイニングも、講習会で学んだ。数年後には活用できるように、調査し、技術の取得を目指す。 （添付資料 13：フォーラム、講習会への参加復命書）
10　添付資料
添付資料 1：シラバス、添付資料 2：辞令、添付資料 3：テキスト、添付資料 4：学修 行動特性 評価シート、添付資料 5：配布資料、 添付資料 6：授業用スライド、添付資料 7：ミニッツペーパー、添付資料 8：プレテスト、添付資料 9：ワークシート、 添付資料 10：授業 リフレクションペーパー、添付資料 11：Moodle の活用事例報告、添付資料 12：講習会資料、 添付資料 13：フォーラム、講習会への参加復命書

愛知学泉大学ティーチングポートフォリオ

2025 年 3 月 30 日